

木曾三川と名古屋市の水道

水資源開発の歴史

- 1 名古屋市水道の誕生と整備
- 2 経済成長と名古屋市水道
- 3 節水型社会と名古屋市水道
- 4 名古屋市水道のこれから

よみがえれ長良川実行員会

事務局長 武藤 仁

名古屋市近代水道の創設

1893(明治26)

内務省顧問W.Kバルトン氏に給水工事調査委嘱。

1894(明治27)

バルトン氏、給水人口27万人と見積もり、水源を入鹿池とする計画報告書提出。

1903(明治36)

愛知県技師上田敏郎氏を上水道布設調査のため嘱託として任命。

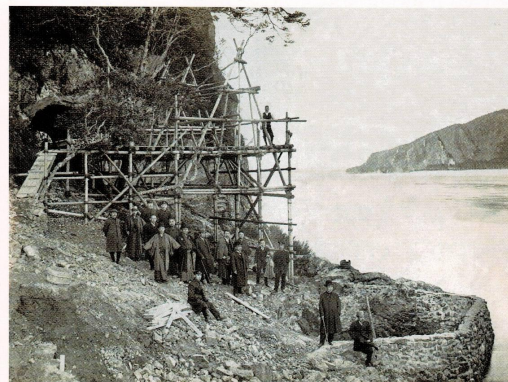
上田氏、犬山より木曽川の水を引水し、田代(現千種区)に山頂にポンプ圧送し給水する案を提出。

1910(明治43)

東山配水池、犬山で起工式

1914(大正3)

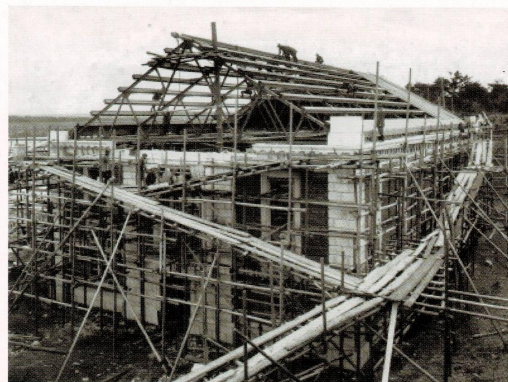
竣工、給水開始。



犬山取水口建設工事



鳥居松村(現春日井市)地内沈澱池コンクリート工事



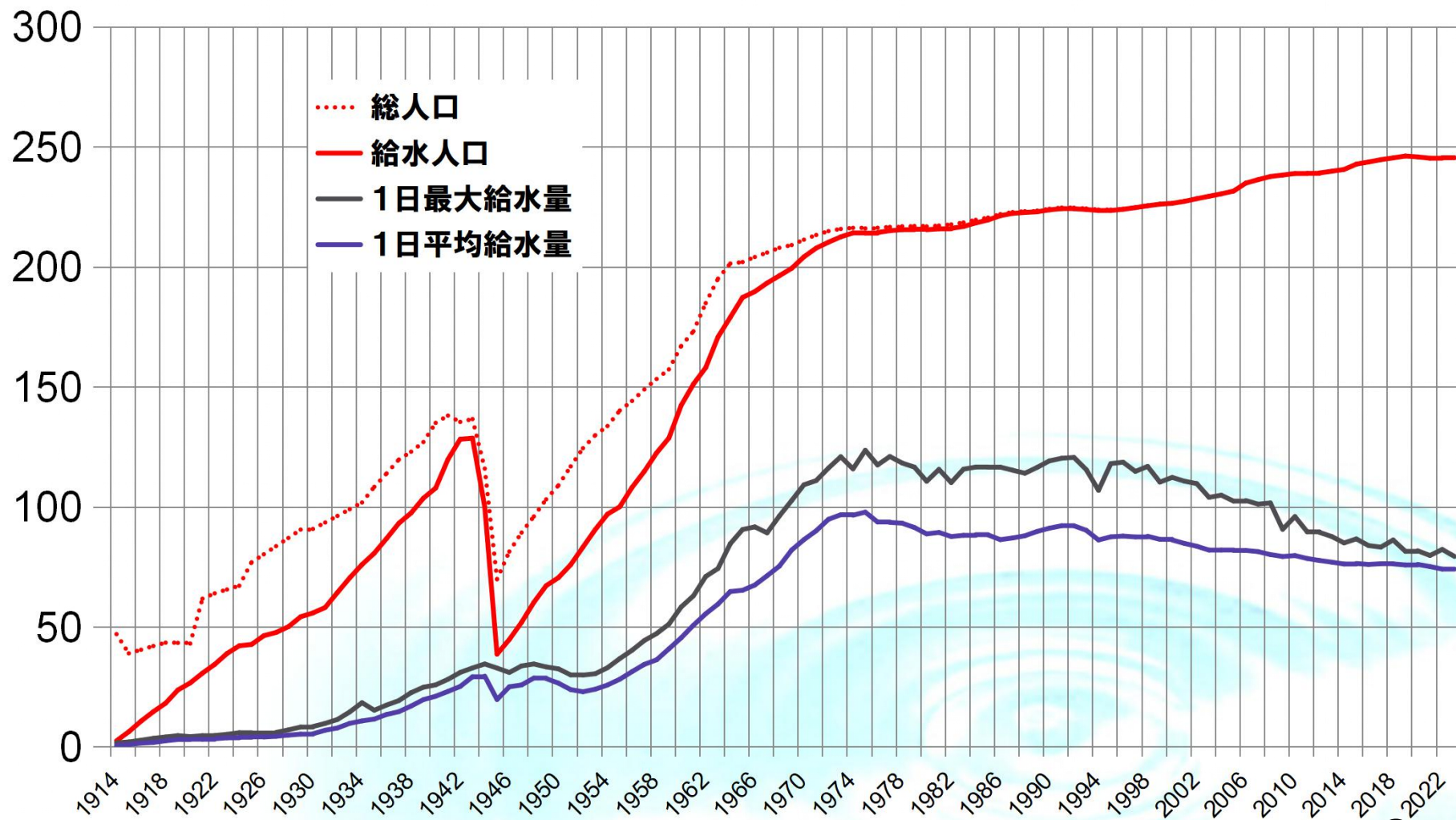
鍋屋上野浄水場ポンプ所建設工事

名古屋市水道百年史

より

(万人)
(万m³)

名古屋市水道の給水人口と給水量の推移



名古屋市水道と木曽川水系の水資源開発

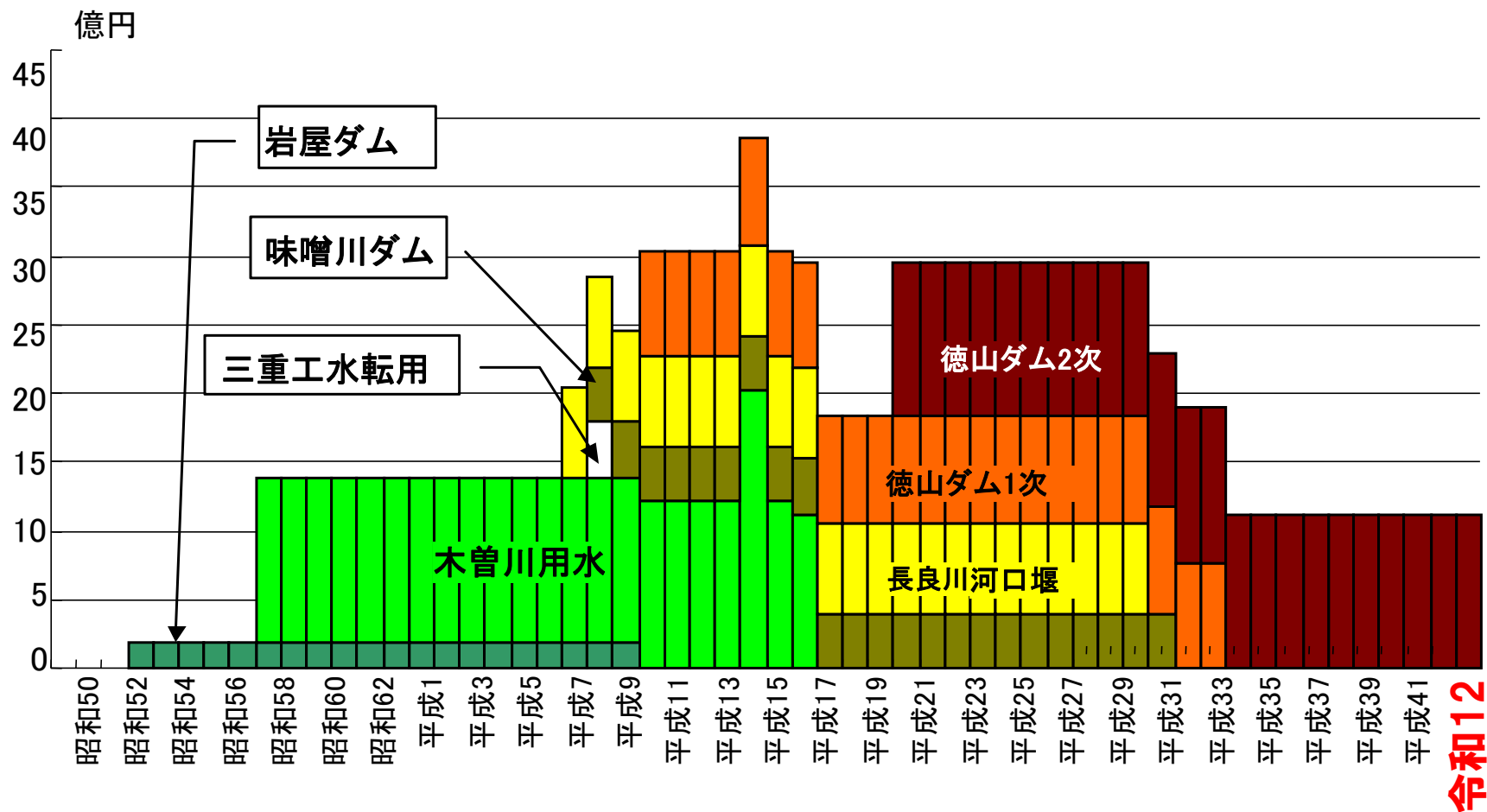
- 1968(昭43) 木曽川水系水資源開発基本計画(フルプラン) → **長良川河口堰**・岩屋ダム
- 1973(昭48) フルプラン全部変更(FPⅡ) → **徳山ダム**・阿木川ダム・味噌川ダム
- 1983(昭58) 木曽川総合用水事業完成(岩屋ダム76年完成、木曽川大堰完成)
-
- 1995(平7) 7月 **長良川河口堰運用開始** 12月 **徳山ダム**建設事業審議委員会設置
- 1996(平8) 味噌川ダム完成
- 1997(平9) **徳山ダム**名古屋市3m³/秒撤退(FPⅢ)
- 2003(平15) **徳山ダム**事業費増額 2540億円→3550億円
- 2004(平16) **徳山ダム**新規水利権12.0m³/秒→6.6m³/秒に(FPⅣ)
- 名古屋市 上水2.0→1.0 工水1.0→0.7
 - 岐阜県 上水1.5→1.2 工水3.5→1.4
 - 愛知県 上水4.0→2.3
-
- 2007(平19)年 8月 **木曽川水系連絡導水路** 案の合意 **徳山ダム**08年完成
- 2009(平21)年 5月 名古屋市長「導水路撤退」声明 10月 国交大臣「導水路凍結」表明
導水路が「検証」対象事業に (国・機構ダム31、都道府県ダム53)
-
- 2011(平23) 愛知県が**長良川河口堰**の検証を始める
-
- 2024(令6) 国土交通省 **木曽川水系連絡導水路**事業「継続」決定発表

名古屋市水道の1日最大給水量と水利権

万m³



名古屋市水道の水源施設建設負担金の償還額

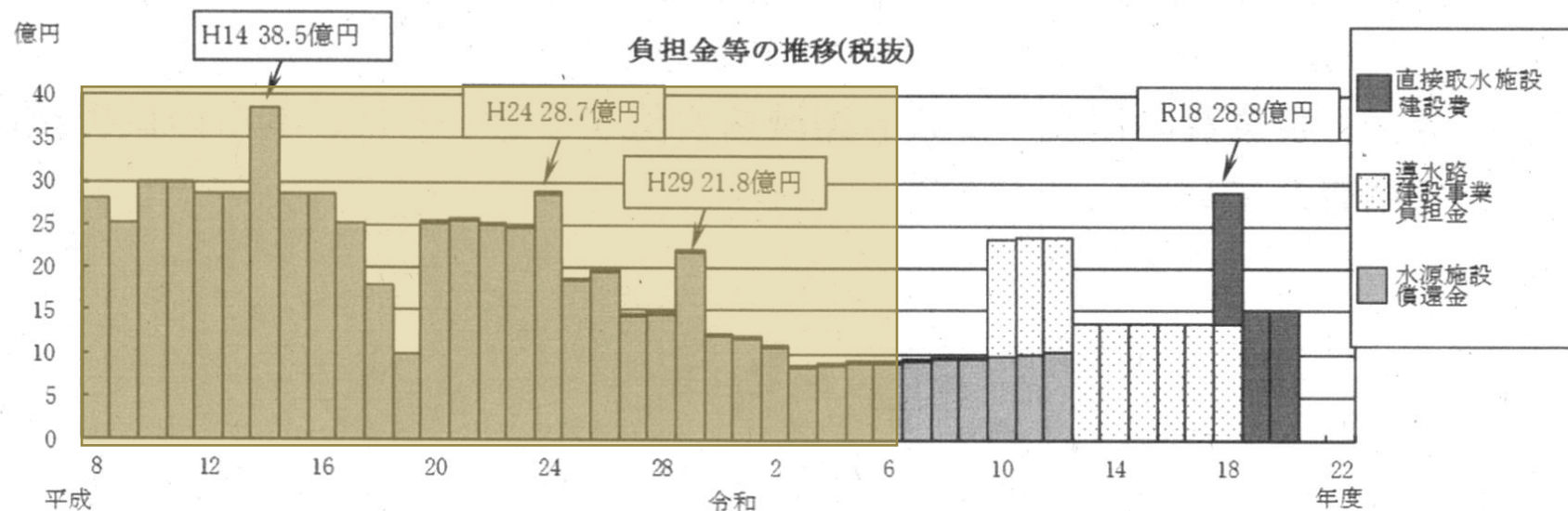


6 事業経営に与える影響について

(1) 水道事業

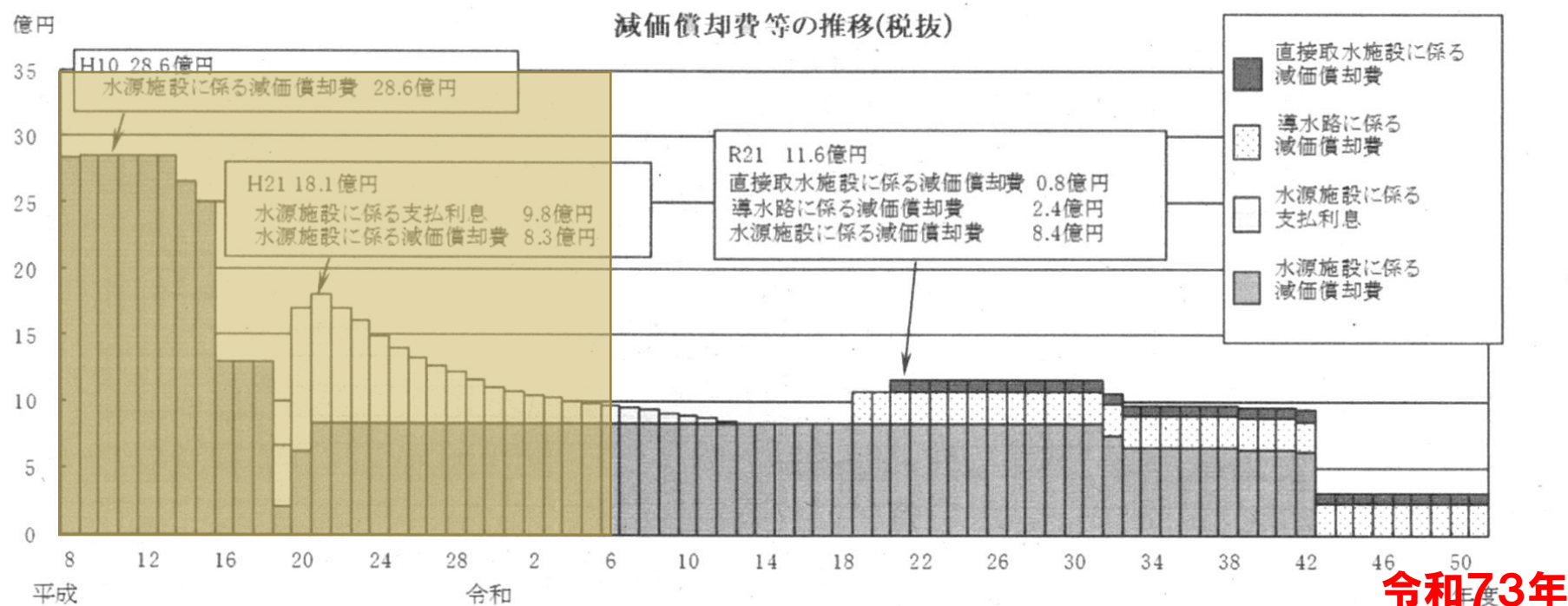
①負担金等の支払いについて

- ・ 導水路建設事業負担総額 約138億円（1／3の国庫補助を控除した額）
- ・ 新用途としての導水路からの直接取水に要する施設の建設費
約50億円（国庫補助を想定しない額）



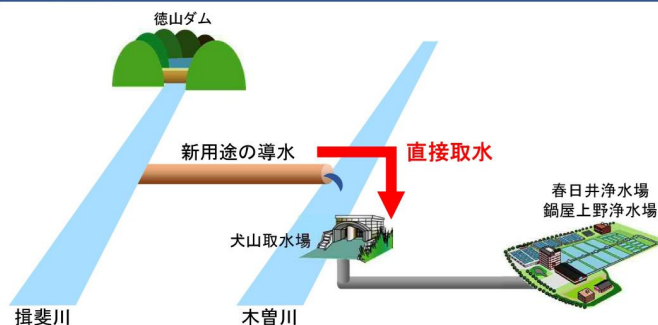
②経営収支への影響について

- ・ 導水路（減価償却費） 令和19～71年度 2.4億円／年
- ・ 直接取水施設（減価償却費） 令和21～73年度 0.8億円／年



新用途の導水

新用途① 安心・安全でおいしい水道水の安定供給



- 水道水の質的確保
⇒ 良質な揖斐川の水を水源に追加
- リスクへの対応力向上
⇒ 事故などで木曽川から取水できない場合の対応

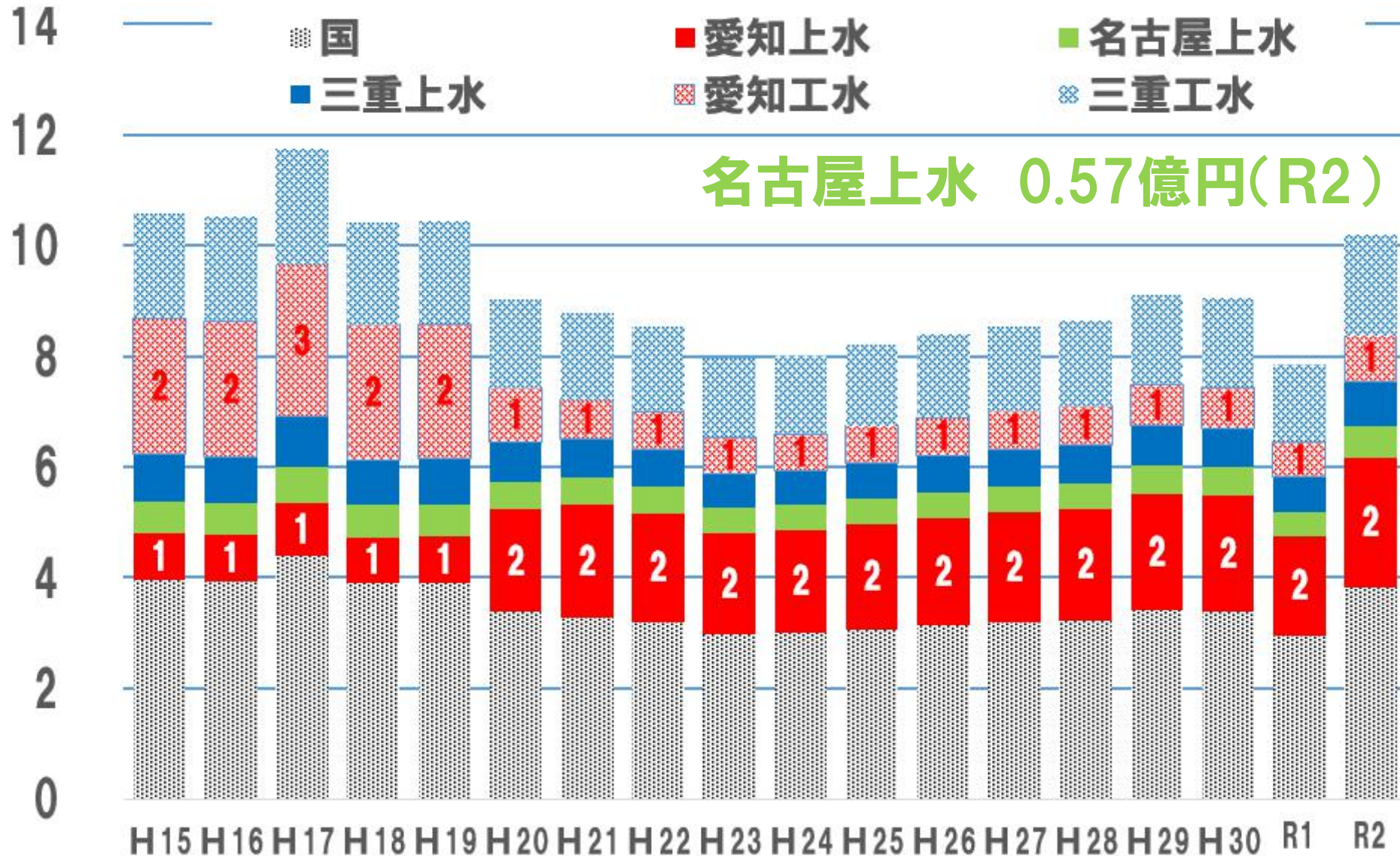


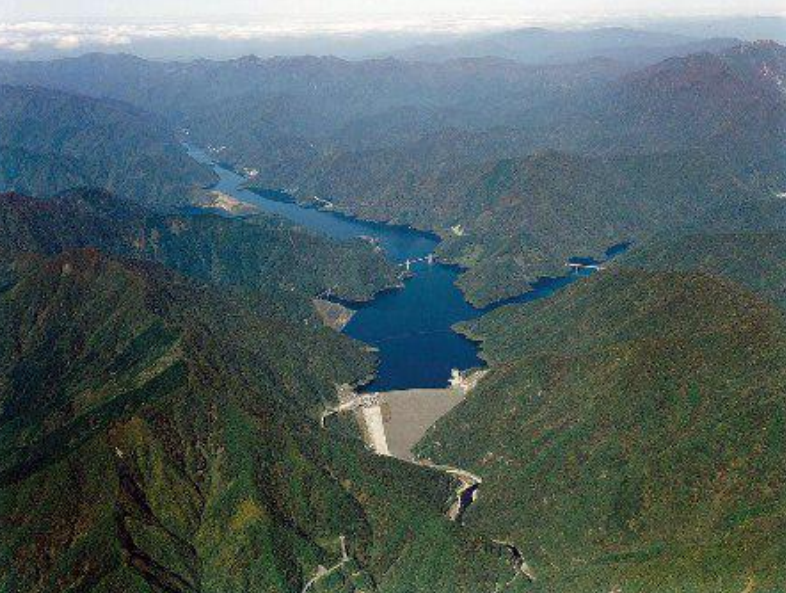
木曽川の下に さらなるトンネル工事

👉 50億円追加

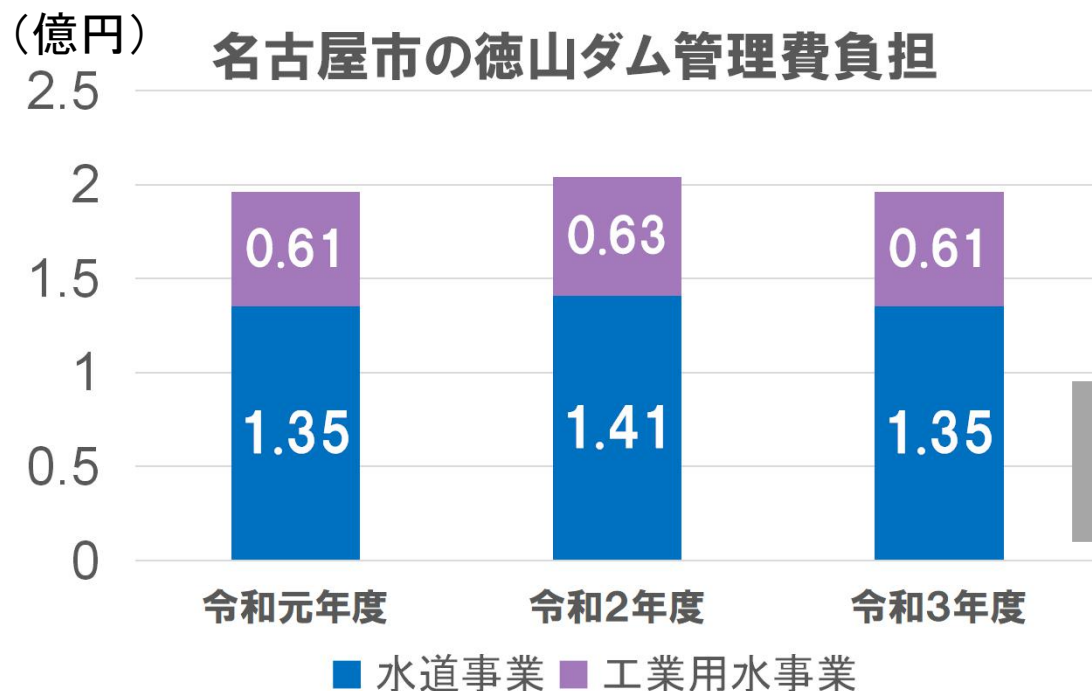
長良川河口堰管理費負担の推移

(億円)

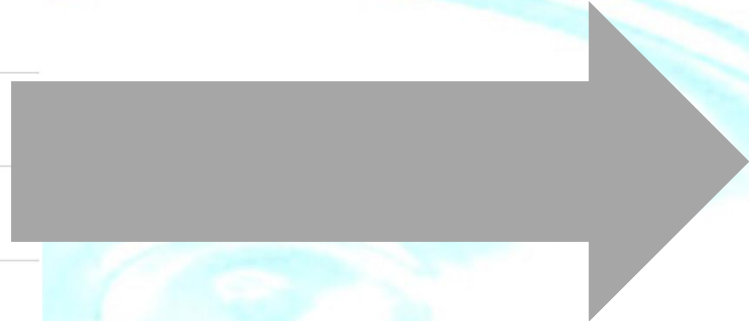




徳山ダム管理費 負担



永遠に！



木曽川水系連絡導水路(徳山ダム導水路)



- ・上流施設 $\phi 3.2 \sim 3.5\text{m}$
約43km

- ・下流施設 約1km

- ・事業費 2,270億円
(当初890億円)

- ・工期
着工までに3年程度
着工から完成まで9年程度

徳山ダムの目的が 変えられた(2004年)



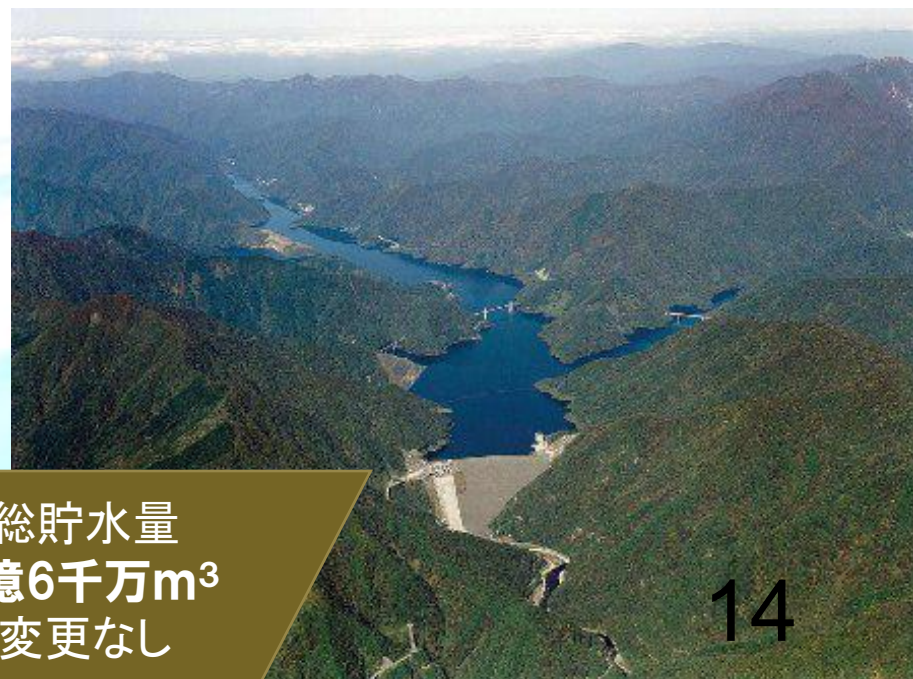
当初の計画 (1973 年)

現在

流水の正常な機能の維持
(異常渇水時の緊急水の補給)

図-4 徳山ダムの貯水容量 (66,000 万 m^3)

総貯水量
6億6千万 m^3
変更なし



木曽川水系連絡導水路(徳山ダム導水路)事業の目的

事業の目的

(1) 流水の正常な維持(異常渇水時[※]の緊急水の補給)

環境

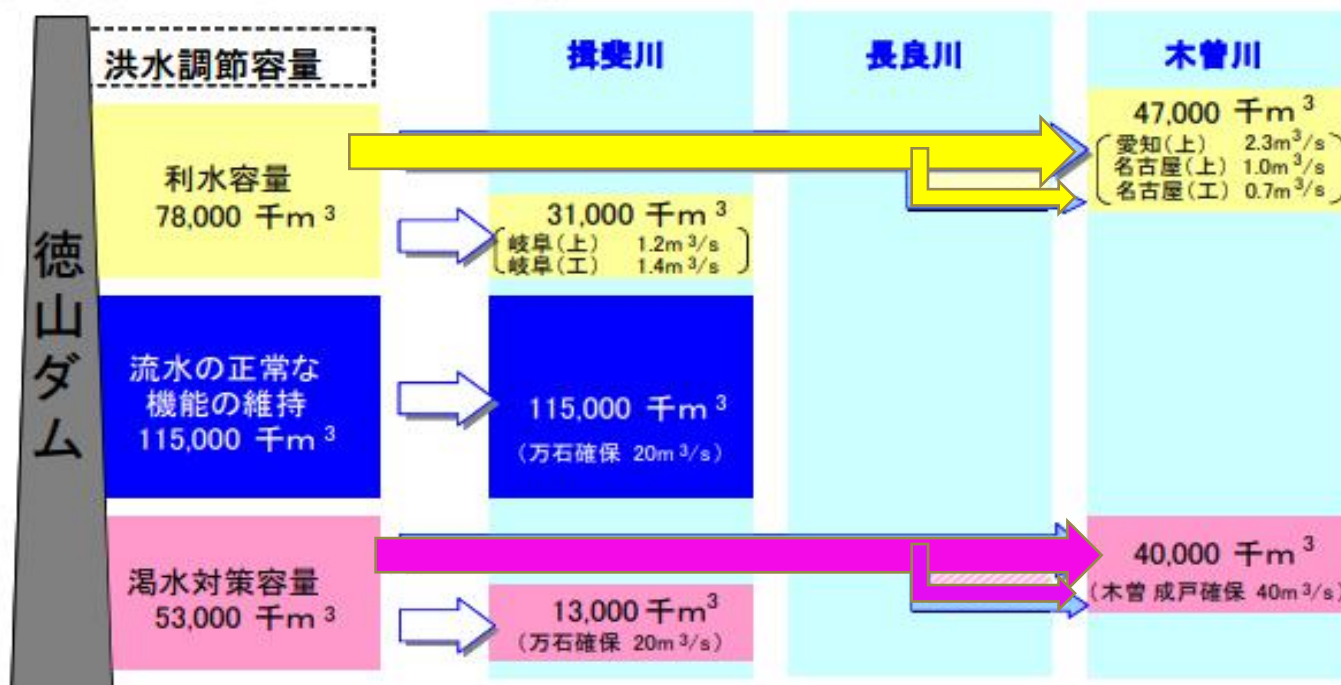
木曽川水系の異常渇水時[※]において、徳山ダムに確保された渇水対策容量の内の4,000万 m^3 の水を 木曽川及び長良川に導水することにより、木曽成戸地点で約 $40\text{m}^3/\text{s}$ を確保し、河川環境の改善を行います。

(2) 水道用水及び工業用水の供給

利水

徳山ダムで開発した愛知県及び名古屋市の都市用水を最大 $4\text{m}^3/\text{s}$ 導水することにより、木曽川で取水できるようにします。

※異常渇水時…10年に1回程度発生する規模の渇水より厳しい渇水。具体的には各ダムに確保された流水の正常な機能の維持のための水が無くなってしまう時。



徳山ダム導水路建設費負担割合 (億円)

× 2.55 = 2270億円

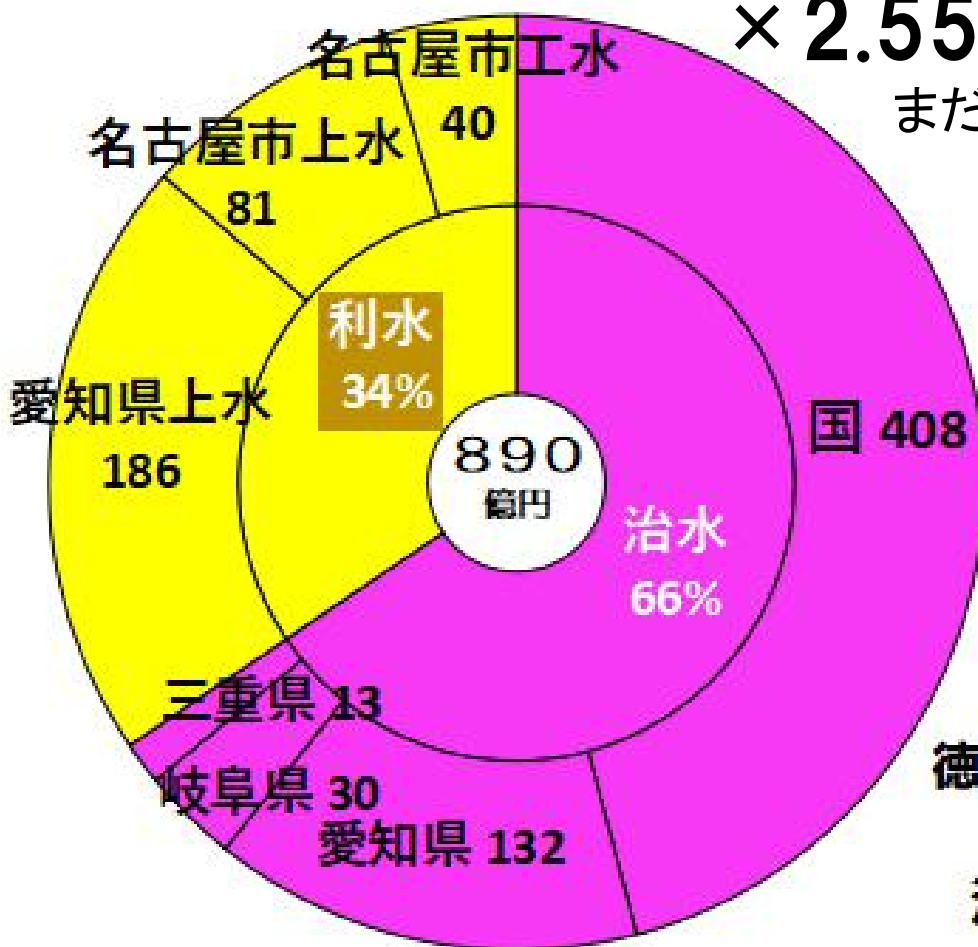
まだまだこれから増額されます。

名古屋市は 今こそ撤退を！

* 2020年埼玉県水道は、「霞ヶ浦導水路事業」から全面撤退しました。

注意！

徳山ダム導水路事業の
「治水」とは
洪水対策ではない!!!



ご清聴ありがとうございました。

7月6日に また お会いしましょう

1995年7月6日に長良川河口堰が運用開始されて30年の月日が過ぎました。
長良川も伊勢湾の地盤隆起、私たちの社会も変わりました。これからの長良川河口堰をみんなで考えてみませんか？

2025年7月6日(日)
13:30~16:00 [開場 14:30]

岐阜県図書館 多目的ホール
(入場料500円・予約不要)



シンポジウム
長良川河口堰運用30年

11:00~12:00 スライド「長良川河口堰の歴史を振り返る」「韓国ナラシガン川河口堰視察報告」を会場にて上映します。

- 報告「長良川河口堰運用30年」 水資源機構中部支庁 (要請中)
- シンポジウム コーディネーター 亀井浩次 NRI 法人 藤前千高や守る会理事長

パネラー 宮本博司 元長良川河口堰建設事務隊長
岐阜県長良川河口堰調査検討会 (要請中)
蔵治光一郎 東山大学大学院教授
三石朱美 元生物多様性の10年市民ネットワーク

主催/よみがえれ長良川実行委員会
(連絡先) 090-1294-1285 武藤



なごや環境大学